

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 4月 11日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス そら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		基準を満たしているが、発達に応じた活動を適切に保障するため、パーテーションで空間を分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		障害特性に応じたきめ細かで、安全に配慮した支援ができるよう基準以上に配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		ワンフロアで段差はないが、3階のため階段には十分指導員を配置して安全を確保している。今後も配慮の視点を職員間で協議していく。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		業務改善は、職員による記録帳や保護者様の声を参考にして目標設定し、月1回の会議において振り返りの場を設けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		アンケート調査は行っていないが、日々きめ細かに連絡を取り合い保護者様の意向を把握して業務改善につなげている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>		ホームページで公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		外部評価は行っていないが、今後必要であれば検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		特別支援教育士SVから定期的に指導を受けている。	今年度は更に研修計画を立てていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		初回時、時間をかけてアセスメントを行うとともに、子どもの発達、成長に応じて適宜アセスメントを行いニーズや課題を客観的に分析し計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		<input type="radio"/>	一部においては標準化されたものを使用している。	特別支援教育士SVと相談し、整備していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者が原案を作成し、児童指導員等で意見を出し合い立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		部分的に固定したものと、随時子どもの成長に合わせて変化させたものを取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>		平日は訓練と遊びの時間を持ち、イベントの日を設け社会体験等を積む。休暇中は午前と午後に分け家庭的雰囲気の中で過ごす。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		集団が小さいため難しさがあるが計画は個別活動と集団活動を適宜組み分けている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>		開始前には必ず打ち合わせをし、確認している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		終了時には担当者のみで行い、全体的には翌日の打ち合わせで行っている。	きめ細かな補足をするためにこれからも振り返りノートの記入を徹底していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>		支援の課題が残れば次につながる取り組みを記録に残して活用している。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		6ヶ月ごと又、必要のある時は適宜モニタリング・アセスメントを行い、計画の見直しを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	<input type="radio"/>		生活の主人公として基本活動を複数組み合わせる中、選び取る力をも育んでいる。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		行事や下校時刻等の情報共有はもとより、保護者様の了解のもと、送迎時において子どもの状況について意見交換できている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療的ケアを必要とする子どもの利用はない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		必要に応じ今後、情報共有していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		対象の利用者様がいらないが、今後、移行があれば支援内容等を提供していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要な場合は、今後も積極的に助言や研修を受けていく。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園などでは、積極的に触れ合っているが今後、放課後児童クラブ等との交流を検討していきたい。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		普段から面談や連絡帳を用いて情報共有している。緊急の場合は送迎時に状況を伝えあったり、メールや電話でも確認している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレント・トレーニングというプログラムの提供は行っていないが、対応について特別支援教育士SVの助言をもとに保護者支援を行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に丁寧に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		随時、保護者様からの子育ての悩み等に対して、専門機関からのアドバイスも含め対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者様のアンケートを基に保護者様同士の連携の支援の在り方を検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情受付機関を設置し、保護者様に周知している。苦情に対し誠意あふれる対応を今後も心がけていきたい。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回通信を発行し情報の発信に努めている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の書類保管は施錠し、利用者の名前はイニシャルで表記。退職後も職員には個人情報保護の誓約をとっている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎時に子どもの様子などを伝えることで情報伝達を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		これから少しずつ、地域の人達とも関わってきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	保護者様への周知の徹底を今後も図る。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	1年ごとに避難訓練の計画を立て、定期的に行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	研修に行った者がスタッフ会議で報告したり、研修記録の回覧を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	対象児はいないが、利用契約書に「緊急時以外は身体拘束を行わない」と記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	対象児はいないが契約時に書類で確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	事例集を作成している。今後も朝礼等で共有していきたい。	